

平成30年度第4回放課後子どもプラン運営委員会

日時 平成30年10月17日(水) 午前10:00から11:30

場所 小金井市役所第2庁舎801会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、志波委員、大久保委員、小林委員、水谷委員、
関生涯学習課長、菊池図書館長、浜田指導室長、鈴木児童青少年課長、梶
野子育て支援課長、

富沢コーディネーター、伊藤コーディネーター、小岩コーディネーター、
古源コーディネーター、森田コーディネーター、吉田コーディネーター、
伊野コーディネーター

小堀生涯学習係長、吉楽生涯学習係主任

欠席者 石原委員、佐野委員、多田委員、本川委員、黒田委員、鈴木委員、西村公
民館長、三浦庶務課長、西田コーディネーター、

傍聴者 1名

1 議事

(1) 各小学校区の報告について

【一小】スタッフ募集を目的として二中ウインドアンサンブル部のコンサートを一
小で開催予定。

【二小】町会向けの回覧でスタッフ募集のチラシを流したところ、5名の申込があ
り、来月から活動していただく予定。

【三小】陸上体験教室とテニス教室をやった。おやじの会とは、今後窓口となった
方と調整予定。

【四小】校庭遊びも室内遊びも順調に実施できている。

【東小】12月に初めて行う体育館でのイベントの準備をしている。7月に英語ク
ラブで行った避難訓練の情報共有をした。

【前原小】10月で安全管理員が、地域の方20名、保護者10名になった。

【本町小】(事務局から連絡)全4教室とも順調に開催している。

【緑小】緑児童館が空調工事のため、今日から放課後子ども教室内容を変更し、児
童館職員にも協力いただき、居場所づくりの対応を行っている。

【南小】南小は毎年1年生の参加は学校に慣れた2学期からで、参加希望者が増え
た。

【事務局】実行委員会預かり団体の報告。緑中放課後カフェは9月に3回開催、う
ち1回は抹茶体験。毎回60～70名の生徒が参加。今後は月2回程度開催予定。
学校支援地域本部とも連携中で、情報交換を行っている。レッツは10月に一
小で新体操体験教室、トランポリン体験教室を開催した。

【副実行委員長】実行委員会報告です。9月11日の第4回実行委員会では、各校
の次年度の事業計画書を10月末までに提出することにした。学童児童の放課後
子ども教室への参加方法について情報共有した。安全管理員の配置基準、謝金の
単価について継続課題とした。10月9日第5回実行委員会は、レッツとの連携
方法、コーディネーター2人制。コーディネーターの後任探し。三小内の調整は
行政に一任する等、協議した。

【委員】 レッツは一小開催なのに実行委員会預かり団体とは、どういうことか。

【事務局】 NPO法人レッツは、全9小学校のほとんどの学校で年数回ずつ、年間計18回予定で、それぞれの小学校区に属さない形で、トランポリン等のスポーツ体験教室を開催している。

(2) 放課後子ども教室の進捗状況

【事務局】 平成27～30年度の進捗表を配布した。新たに小学1～3年生の人数を記載した。ほぼ前年度と同じ進捗率です。

(3) 平成31年度協議会の実施について

【事務局】 今年度は第三小学校区、東小学校区、前原小学校区、本町小学校区の4校区で開催しており、平成31年度は全9小学校区で協議会を開催予定。今後各関係者と調整予定。協議会設置要綱を改正予定。来年度の9校実施に伴い、催回数今年度の年3回から、来年度は年2回に変更させていただきたい。

【コーディネーター】 先日の協議会終了後、学童指導員、校長先生と相談し、小金井警察署に協力をいただきながら、不審者対応の避難訓練を行うことにした。今後学童指導員と小金井警察に訪問予定。

【委員】 来年協議会9校実施に向け、先行4校の実施成果等を集約し、全校に反映できないか。

【事務局】 成果としては、学校や学童の仕組みがわかったこと。小学校区ごとに特有の事情、課題があるのがわかったこと。3者で直接話すことでの信頼関係強化。連携した避難訓練の実現。そういった成果があると考えている。

【委員】 改めてお互いのやりかた、仕組みを知ることができた。今後児童数が増えていく中で余裕教室の活用は難しいと再認識できたが、校長副校長には教室運用が難しい中でも、いかに工夫してやれるかという認識を持っていただいた。また昨今の不審者や防災対策も各小学校区の共通の課題で、協議会で話して、3者で連携するという話が具体的に進められた。3者で話し合うのは非常に意義深い。

【委員】 協議会を2回にするのであれば、今年各学校で出された問題点を示し、協議会が有意義に進む形にさせていただきたい。

【コーディネーター】 来年度協議会2回開催の話は、学校・学童にもしているのか。

【事務局】 前回の校長会で、協議会の協力依頼をした。今後5校との調整の中で、2回開催の説明をする。学童とも今後調整予定。

【コーディネーター】 四小にはさわらび学童と民間のたけのこ学童があるが、民間学童は協議会に参加するのか。

【事務局】 今後関係者で検討していく。

【副委員長】 来年度協議会が2回だと時期はどうするか。

【コーディネーター】 1回目が5月下旬だったがもっと早い方がいい。2回開催だと2回目は内容検証なのか、事業推進の会議なのか、目的をはっきりすべき。

(4) コーディネーターの確保について

【委員長】 今はコーディネーターが全9小学校に1人ずつ配置されているが、自身

の子どもが卒業し、また後任がない中で続けている。放課後子ども教室事業はコーディネーターの人材確保が重要だが、ボランティア頼みで限界にきている。人材確保について、意見を聞きながら対策を図りたい。

【副委員長】その前にコーディネーターの選出方法や仕事について説明してほしい。

【事務局】コーディネーター選出は、各小学校区で実際に放課後子ども教室を開催している推進委員会に、コーディネーター推薦書を提出していただき、決定している。コーディネーターの役割は、生涯学習課、学校、学童、スタッフ等関係者間の調整。各学校区で放課後子ども教室を開催する際のシフト調整。年6回の放課後子どもプラン運営委員会、年10回の放課後子ども教室実行委員会の出席と、それぞれの会議での各小学校区の報告や、またそれぞれの会議で決まったことを各推進委員会にフィードバックする等、かなり多岐に渡る。

【コーディネーター】私たちは小学校に在籍している子どもがいない中で活動しているため、小学校での連携が難しくなっている。またコーディネーターは各小学校区内の推進委員会での活動調整とともに、それを9小学校区の実行委員会で情報共有して、小金井市の放課後子ども教室活動について推進の方向性をもってやっている。また、コーディネーターと各校の推進委員長は、今は原則兼任（9校区中6校区が兼任）で、対外的なコーディネーター、対内的な推進委員長と分けている。推進委員会開催や教室手配等を担っており、周りから見ると大変な仕事をやっているという風に見られ、それも後任が出てこない要因ではないか。

【副委員長】コーディネーター制は平成25年に9人で発足し、その時の方が今も6名残っている。今後二人にするとか、引継ぎをスムーズにする等、運営委員会で検討しなければならない。他の団体の中にも調整役や委員長の選出について苦慮されているかと思うが、どうクリアしているのか。

【委員】市子連では世話人は保護者の方がやるので、子どもが小学校に在籍しているときはきちんと回していけるが、役員はそうではなく、少しずつ新しい方が加わることもあるが、やはり特定の方が長年続けているのが実態。

【副委員長】子どもが卒業後、世話人になって下さる方はいるか。

【委員】子ども会の世話人として、子どもがいなくてもやっている方はいない。恐らくそういう方は育成者として、外からのサポートという形で残っている。

【副委員長】他団体の意見は。今コーディネーターは任期がないですね。

【コーディネーター】1年ごとの推進委員会からの推薦だが、上限はない。

【コーディネーター】コーディネーターは有償という立場を言っていたきたい。

【事務局】コーディネーターには、月毎に報告書を出してもらい、1時間当たり740円の謝礼をお支払いしています。

【副委員長】月に何時間やらなければならないという決まりはあるか。

【事務局】予算上限はあるが、それ以外に時間的な決まりはない。

【委員長】1時間740円。最低賃金を下回っている。

【コーディネーター】コーディネーターの報告書ですが、自己申告なのでかなり絞らざるを得ない。また業務内容がコーディネーター業務に当てはまらないこともある。

【コーディネーター】コーディネーターだけを新たに見つけてきた場合、実働部隊

の推進委員長を誰が担うのか。新たに見つけてきたコーディネーターが、内情も知らないまま推進委員長と業務を分けて出来るのか。また小学生の子どもがいると学校の内情がわかるが、自分は子どもをほったらかしでコーディネーターをやってきたので、現役の保護者は難しいのではないか。

【委員】問題はコーディネーターの業務と推進委員長の業務が明確にしきれないこと。推進委員会の事務に対し、制度的に謝礼金が出た方がいいのではないかと。外部からのコーディネーター希望者に、その小学校区のコーディネートを任せていいのか、ということ。今後も話し合っていきたい。

【副委員長】人材確保とシステムも課題。

【委員】謝金の仕組みがわからない。要綱に明記がない。有償ボランティアという位置づけでよいか。

【事務局】要綱には謝金単価は記載されていない。コーディネーターには1時間当たり740円。月ごとに報告書を出してもらい、その合計額を払っている。安全管理員は1時間665円。3時間を1回として1,995円を払っている。学習アドバイザーは1時間740円。3時間を1回として2,220円を払っている。推進委員長は無償。

【委員長】後継者を現役コーディネーターが自分で見つけるのは無理。有償ボランティアだが、かなりの時間や持ち出しをしている。運営委員会の責任として、後任を探すのはどうしたらいいか。そういうことを行政含め関係者に求めたい。

【委員】健全育成地区委員会は、実態は一本釣り。長が次の長を連れてくる形。これからはもう少し皆で議論しながらやりたい。ボランティアはフルタイムで仕事をしている人には難しい。ある程度時間に制約のない人を選ばざるを得ないので、中々見つからない。

【委員】コーディネーターの募集を、いつでもどこでも誰でも声掛けしていいのか。コーディネーターの基準や募集方法等を考えるべきか。

【副委員長】今は現場の集まりである推進委員会で、コーディネーターを推薦するシステム。どこかから応募した人がいきなりコーディネーターをするのは、今のシステムでは無理。切迫した課題なので、本気で運営委員会で検討していきたい。

【コーディネーター】3年前に私がコーディネーターをやることになり、それを生涯学習課に伝えたときに、契約書や仕様書が無かった。業務説明は前任から引き継ぐよう言われた。コーディネーター業務は謝金対象なので業務内容は定義すべき。要綱や手引きに概略は書いてあるが、漠然としている。またコーディネーターの活動報告書には、何がコーディネーター業務か、定義がないので、こちらとしては推進委員会の業務を全て記載している。それに対し何がコーディネーター業務として認められ、何が認められないのか、回答はなかった。コーディネーター業務が漠然としていると、熱心な方だと業務が増えてしまう。また次に担う方が安心して引き継げるように、ある程度の仕様書があると、コーディネーターも引き継ぐ方も楽なのではないか。

【事務局】コーディネーターは調整が主な役割で、謝金を渡す作業は調整ではない等、実行委員会で話したことがあるが、推進委員長とコーディネーターとの業務の区分け、謝金の対象になる業務とならない業務等、東京都にも確認しながら、

実行委員会で検討していきたい。

【委員】今の引き継ぎ書等含め、行政として現場に任せきりだったと反省している。課題として受け止め、今後はコーディネーター確保がすごく大きな問題と捉え、努力しなければならないと同時に、皆様の協力をいただきたい。今回頂いた意見を踏まえ、より円滑な運営ができるよう努めていく。

【委員長】すぐ解決できる問題ではないので、検討を深め対応に万全を尽くしたい。

(5) その他

【事務局】地域教育スタートアップ講座のお知らせ。学芸大学と小金井市・国分寺市・小平市の3市が連携してボランティア養成講座を行う。是非大勢の方に参加して頂きたい。また、第2回・第3回放課後子どもプラン運営委員会会議録を配布した。皆さんの内容修正を反映したので、了承を得られればホームページで公開する。

放課後子ども教室日程を配布した。抜けているところは修正後、メールでお送りする。運営委員に開催現場の見学をしていただきたい。「本気で放課後を考えるプロジェクト」報告。日時は平成30年10月14日（日）の14時から16時。場所は中町さくらなみ集会施設。内容は、児童青少年課から児童館、プレイパーク、学童保育の説明。生涯学習課から放課後子ども教室の説明をした。説明が長引き、質疑応答時間がほとんどとれなかった。

【委員長】地域教育スタートアップ講座の内容は生涯学習課が提案したのか。

【事務局】放課後子ども教室ボランティアが増えるような内容として依頼した。

【委員】今回国分寺の講座も小金井と同じ内容、日程ですが、共同開催か。

【事務局】共同開催。その場合は定員が単独開催に比べ2倍となる。

【コーディネーター】前回の運営委員会で、指導室長から熱中症の資料を頂き、お礼を申し上げます。これから窓口を行政に移行していく中で、ルールをきちんと守ったうえで運営していただきたい。また運営委員会の皆様にはルールのもとで私達は活動しているということで、そこに特別に窓口を設けて行政とやり取りしてもらうのは、実はどうなのか、ということも思いながら、私は進めていることをご理解いただきたい。

【委員】前回話題になった学校格差について、具体的に教えていただきたい。

【委員】学校ごとに余裕教室の有無が違う。借りられる教室も違う。スタッフの人数が違う。放課後の時間の解釈が先生毎に異なり、5時間目終了後から開催できる学校と、6時間目終了後から開催できる学校がある。一旦家に帰ってから参加する教室もある。色々差がある部分をまとめて表現した。

【委員】各学校は当然学校運営の校長以下やるわけで、それぞれ差が出てくるのは当然だし、資源に限られることも学校ごとに違いがあるから、一律に決めようということにはならない。学校の中で議論を十分して、譲り合いながら努力していくしかない。

【委員】また校庭の使い方も、放課後子ども教室やPTAによる見守りのある校庭開放しか許されない学校と、公園同様見守りがいないオープンな形で校庭を使える学校がある。先生の考えがあるのはわかるが、それらを知ることにより、同じ状態にして、子ども達に遊べる場所、過ごす場所を享受できる可能性があると思

い、提案した。もちろんその場所の考えを否定するわけではない。

【委員長】 学校、推進委員会メンバー、その学校で揃えられるボランティア、それらを学校格差というのか。それぞれの推進委員会の置かれている環境、構成メンバーの要素、それらの要因の中で活動しているのが現状と認識している。基本は子どもの居場所だから、どういう形にせよ居場所ができていればいい。格差ではなく、それぞれの地域の置かれた環境が作り出す差異だと認識している。今この段階でこれが問題として取り上げられるのは疑問に思っている。ですからそこをご理解いただいて、当分の間そういう不均衡発展もあるが、そういうことをご認識いただければ、と私は理解している。

【委員】 これからは民間学童が増える可能性があるなので、連携する場合は誰がどうコンタクトを取るのか検討いただきたい。それと空き教室の活用について、今後5年間で小金井市の小学校では20クラス以上増えるのが見えており、教室も不足し、学童も溢れる。もっと危機感をもってスピード感をもって動いていただきたい。

【委員長】 他にございますか。なければこれで終わります。